

2330

日本百將傳一夕話

七

日本百將傳一夕話卷之七



東都

松亭金水謹撰

目錄

○ 源義經

○ 上總廣常

○ 千葉常胤

○ 和田義盛

○ 梶原景時

以上五將目錄終

永田姓



義朝 ヨシトモ 左馬頭

義經 ヨシナガ 源九郎

平治元年己卯生
母常盤

女 伊豆若門尉有
綱妻

女 衣川義經
指授ス

乾氏

母南都 衆徒 勸修
坊女 南都 二
子孫 今 猶在リ

源義經

人皇土代後鳥羽帝文治五年討死
今安政三辰追 六百六十八年ニ成

源義經者頼朝秀弟也戰則勝之

攻則取之本朝古來無出其右者

可謂暗合孫吳壓倒韓白其事蹟

載在口碑

衣川を破る。世に討死と被る。辨慶以下四天王のうち亀井に圍
る。又三太郎春の所従と傳へて蝦夷へ遁る。夷人尊崇して是を保護を
難。韃靼不到。國王の婿とあり。今も奥蝦夷。大明神と崇と

君 王 之 弟 才

羊

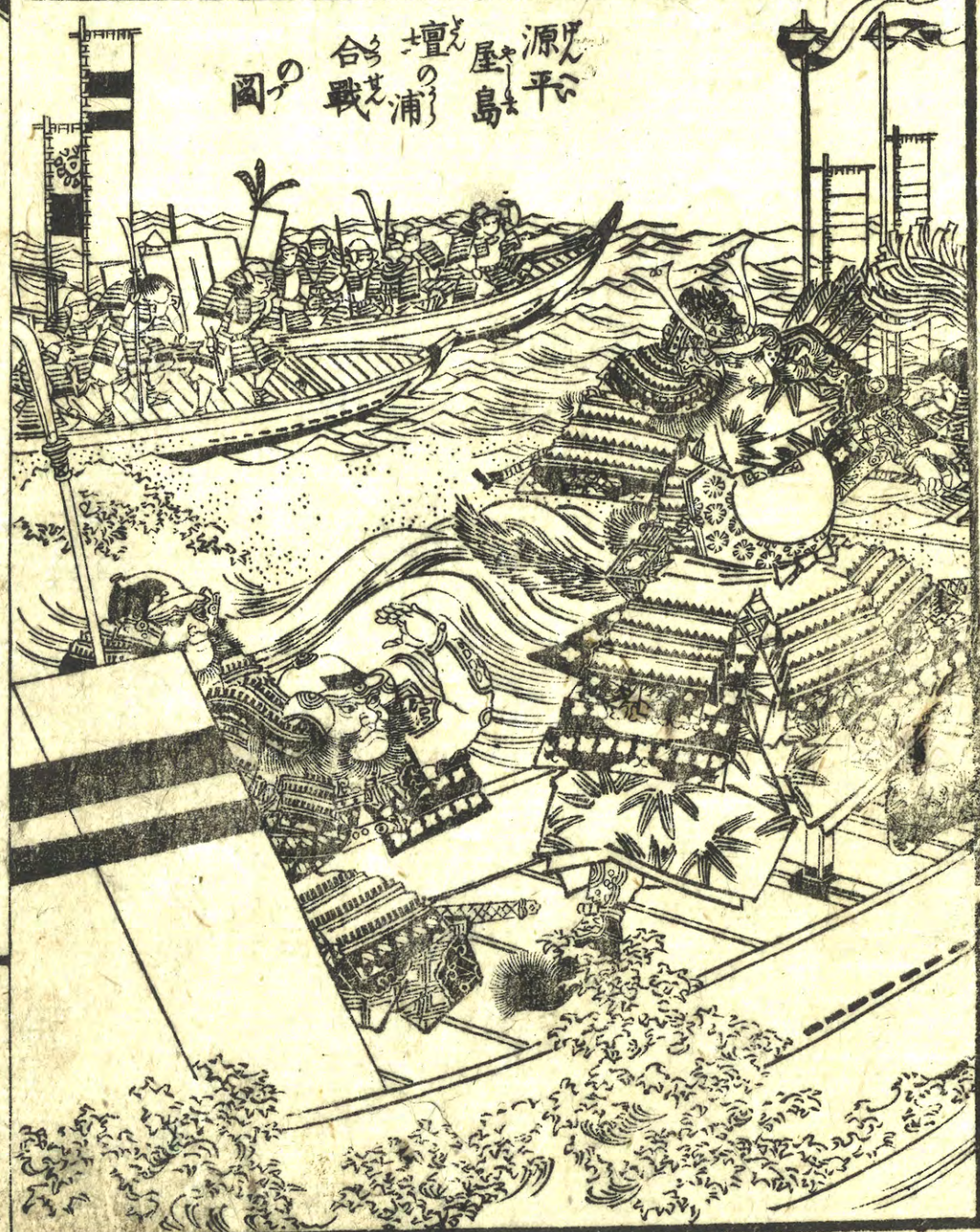
然るに母の常盤が終より出家得度なすべし。と云く。催促ありけし。と斗着。左に
 小のひ遁まで更に剃髪の意あり。殊に源之佐頼政の洛にあり。折く。郎従ぞと云
 否と訪らひ。衣服で訪し。調度で贈る。且渡辺黨の中。播磨次郎省ぞとて。出家と云

く牛ふ牛ふの心と固う。出家と稱ひての所小長くありあつて思ふるを
 こころより禪林防律師等が。寄て使宣と稱ひけるに播磨次郎頼政の内を
 附弟とありて。その弟を元と改む
 ていふ未だ。如此とありていふ。從ひ兼安元年二月二日の曉天小鞍馬で
 出陣。奥の金高入橋次季希に伴ひて粟田にまで出。処縁で頼政より示せ
 如く深栖陵助頼重ありの。遠の頼政の一族あて。こふ牛ふが来ると候うち連
 ちて奥及へ下り。秀衡が家と主と。秀衡の清濁が孫あて八幡を兼義家
 以来秀衡の家を。頼政に止めおさぬ

附ての牛ふ義親とて。ありて。月十日尾及小到る。因て熱田大宮内西次
 範忠が許に。若て首服と加へ源九郎義経とまゐる
 その次の年改元あつて安元となりける。其年の冬に。あり義経既に十七歳熟
 思ふに。秀衡が家教に。因て身い安けと。いふ。邊境に。潜まりて。花洛の勅許さ

に。今を。若て。大室の便所。と。竊小都へ。登つ。その。容を。窺ひ。以て。當時。平家。を。世
 盛。草木。も。魔。ぬ。る。あけ。は。大義。で。思ひ。企つ。その。所謂。蟻。蜂。が。芥。で。りて。隆
 車。に向ふ。喻へ。あ。は。時。の。至。る。と。候。小。若。下。然。あ。て。中。幼。稚。より。梵。刹。に。ありて。兵
 知。ら。ん。こ。と。と。學。む。ん。と。思ひ。ける。が。その。頃。東。陣。河。に。鬼。一。と。い。ふ。達。人。あり。こ。と
 小。隨。從。と。い。ふ。と。い。ふ。と。索。めて。門。人。と。なる。折。鬼。一。の。作。縁。の。小。係。は。律。師。が。二。代
 の。孫。吉。岡。憲。清。が。ふ。て。幼。名。で。鬼。一。と。い。ひ。ける。が。陰。陽。博。士。主。親。政。安。信。泰。長。が
 門。小。入。り。て。曆。算。推。歩。の。術。で。究。め。兼。て。兵。法。小。心。と。委。ね。鞍。馬。に。折。り。て。多。門。天。の
 示。現。で。蒙。る。と。夫。より。左。府。頼。長。に。屬。て。奏。聞。と。經。六。韜。三。畧。の。書。を。賜。は。り。又
 法。眼。小。叙。せ。ら。は。あ。ふ。於。て。その。名。高。く。都。郡。の。學。と。作。ぎ。り。と。も。義。経。鬼。一。が。門。小
 入。り。て。晝。夜。兵。法。を。學。ぶ。と。一。が。元。來。秀。才。聰。明。な。と。い。は。れ。て。十。と。知。る。鬼。一。の。其
 術。の。元。あ。る。と。不。覺。に。感。動。思。ふ。と。い。ふ。も。の。と。其。法。を。皆。傳。せ。し。よ。つて。鬼。一。が

源平屋敷の戦い
合戦の図



人意の表に於て。よりや太公望諸葛亮再びこの世に當るとも極めて克く。がこれの
功あり。平家思ひの外に責まらるゝとて。讃岐屋嶋に引退きて。更にお防ぎ棄てりし
に。屋嶋の肉裡で焚き死にあり。船に乗て海に漂ひ。長門の浦に。前帝及び
二位尼平法皇。盡く海に没し。玉璽神鏡の三種を奉り。都へ返り。納め奉り。建徳門
院で始め奉り。平家盛りの餘の虜數人。とて。後醍醐天皇。御前。小飯原。に。送るに。頼朝。梶
が。總て。信じて。府に入らば。腰刀より。逆かき。さす。
お命に。より。て。後醍醐天皇。に。お。敵。し。事。で。その。身。も。証。代。
せ。は。る。繁。累。の。横。朝。の。條。に。より。今。さ。ふ。と。と。累。せ。り。
ら。る。い。古。今。に。その。例。が。し。と。せば。後。醍。醐。天皇。累。累。に。起。て。智。量。抜。群。あり。と。思。ふ。と。も。
その。傳。へ。る。歎。げ。べ。い。
評。と。り。経。に。云。く。能。戦。ふ。の。い。上。刑。に。依。り。と。將。に。後。醍。醐。天皇。と。せん。且。世。俗
の。後。醍。醐。天皇。と。遊。ぶ。者。ハ。溺。と。り。騎。る。者。ハ。墮。と。り。る。も。將。に。さ。の。の。と。せん。え。

いふと。いふに。武勇。條。案。時。變。に。應。じて。と。て。な。す。と。風。の。木。の。ふ。と。捲。が。如。い。
實。に。よく。戦。ふ。の。なり。及。て。以。て。勝。に。ま。じ。威。勢。に。據。て。至。尊。と。言。は。れ。に。皇
天。の。事。と。て。功。あり。と。も。當。せ。う。と。い。は。し。涯。落。魄。の。人。と。なる。是。上。刑。に。依。る。
の。なり。後。の。後。醍。醐。天皇。の。旨。味の。目。ト。け。と。い。は。し。贅。言。せ。ば。但。し。の。と。と。東。國。先。生。
評。に。辨。じて。国。史。畧。に。知。書。と。加。ふ。左。の。如。い。
從。六。位。下。河。内。介。西。尾。言。忠。松。苗。之。弟。也。嘗。論。帝。崩。西。海。之。事。曰。我。邦
古。來。向。關。寧。弓。者。稱。曰。朝。敵。朝。敵。即。逆。賊。之。謂。也。凡。為。朝。敵。者。未
曾。有。全。其。終。者。也。當。時。源。氏。西。討。雖。假。名。於。王。師。其。實。私。戰。耳。非。為
朝廷。也。要。之。平。氏。有。罪。則。可。伐。有。讎。則。可。復。唯。此。安。德。天。皇。雖。謂。故
相。國。平。公。之。外。孫。身。擁。三。品。位。居。萬。衆。儼。然。我。臣。民。之。主。也。豈。可。向。帝
舟。登。一。矢。手。先。是。一。谷。八。嶋。之。戰。平。氏。族。屬。殆。盡。及。逃。壇。浦。諸。將。士。存。者。

上總廣常の略

元 後一條帝の時、長元四年、平家頼朝、源頼朝、追討使として、既に
 殊小伏し、平忠常のふりあり。その時、諸共、殊せうは、さき、母、平忠常、正度が女
 あり。その殊親の在さぬと、嘆けうねとに思ひ、その良人の亡と、親ひ、憐れと、さき、抱き
 て、常陸の父が、許へ、遠く、逃れ、まう。かくて、正度、その後、に、官軍に、加へ、さき、の、戦功
 あり、因て、頼朝、由、寛宥、れ、沙汰、せ、し。かく、頼朝、と、運、ら、さ、し、ければ、決、て、元、事、不
 成、長、り、千、葉、の、常、將、と、号、し、ま、う。六、代、で、終、て、上、総、権、次、廣、常、豪、族、の、事、有、る
 せ、し。その、威、を、東、國、に、輝、く、ま、う。頼、朝、卿、兵、と、奉、て、目、代、兼、隆、と、山、本、に、伐、て、
 東、始、と、一、と、敵、び、大、庭、候、野、が、大、軍、に、圍、ま、う。所、方、二、と、憑、こ、う。其、田、と、一、と、
 忠、も、敢、て、討、死、し、ま、う。忽、地、に、敗、軍、と、あり。從、卒、四、方、に、散、れ、と、土、肥、の、堀、に、
 入、る、と、ま、い。主、從、僅、七、騎、と、あり。平、家、の、為、に、細、裏、の、魚、釜、中、の、事、と、あり。

天、洪、福、と、降、さ、し、て、梶、原、景、時、に、依、ら、ま、幸、く、と、こ、と、出、小、舟、に、掉、り、て、安、房、の、玉、
 美、鶴、が、傍、へ、到、ら、ま、う。小、柄、安、清、の、思、ひ、の、お、せ、と、い、ま、う。東、玉、の、軍、勢、到、ら、ば、その、勢、ひ、
 微、く、る、い、ま、う。頼、朝、小、山、田、郎、朝、政、下、河、を、莊、目、行、平、を、將、權、守、清、元、甚、西、之、郎、
 清、重、等、に、早、く、来、合、ま、さ、き、の、う、い、ま、う。所、書、と、賜、ま、し、ま、う。各、畏、と、い、ま、う。清、い、の、う、ま、う。
 左、右、あ、り、の、事、を、集、め、ま、う。さ、き、今日、平、北、郡、より。ま、づ、權、次、廣、常、が、方、へ、渡、あ、べ、と、
 強、せ、う、と、け、ら、に、黃、昏、に、及、ぶ、と、い、ま、う。或、民、屋、に、入、て、止、宿、か、う、い、ひ、ける、に、其、女、の、住、人、長、
 使、六、郎、常、伴、と、い、ま、う。の、平、家、に、志、深、ま、し、ま、う。如、此、の、う、い、ま、う。彼、吾、等、取、て、勲、功、の、賞、
 小、共、と、い、ま、う。と、密、小、の、勢、を、引、率、し、ま、う。う、ち、對、し、と、せ、頼、朝、小、浦、義、澄、の、と、と、早、く、も、
 破、初、と、此、方、より、進、ま、う。と、是、で、頼、朝、長、使、常、伴、に、不、意、と、襲、ま、う。防、ぎ、致、さ、し、ま、う。三、
 浦、が、猛、勢、に、敵、し、か、う。竟、小、敗、北、と、逃、れ、ま、う。かく、而、後、小、伏、ひ、ける、安、西、景、益、ま、う。
 一、の、名、も、常、伴、左、右、の、進、電、せ、り、と、頼、朝、頼、朝、の、老、多、か、う。廣、常、が、弟、へ、渡、ら、せ、

久しうとたふしべ。若くは使と遣はさる。山道ひに糸向走さる。今ぞうきん共
 とかけまはる。各々の機むと。和国太郎者登と。廣常が方に藤九郎登長と。千葉公
 常胤が方に遠はさる。りける。小廣常者盛に對面して。世有と。義と。千葉公ふまじ
 終。事とはさる。と。さる。おに常胤の使と。源家再興の旨。義と。義と。心中
 大い喜悅と。嫡子と。始め。嫡孫まで。一人も残らば。引。下。総の國府に。糸。糸。糸。糸。
 朝。大。不。飲。び。り。さる。に。權。公。廣。常。の。い。ま。さ。ら。ば。渠。の。一。族。所。從。由。多。一。康。の。味。方
 あ。う。ん。と。思。ひ。め。い。小。連。系。の。糸。の。う。る。所。存。也。と。言。さ。る。廣。常。は。十。景。公。が。そ。の
 下。迄。ま。で。五。城。一。の。い。ま。さ。ら。ば。周。東。因。西。修。南。修。北。廳。南。廳。北。の。輩。を。逼。催。其。勢
 於。合。二。万。餘。清。治。義。和。年。九。月。十九。日。隅。田。川。の。邊。に。於。て。賴。朝。の。所。陳。に。來。る。廣。常
 が。心。の。賴。朝。義。兵。と。奉。り。ひ。て。石。橋。山。に。敗。軍。あり。安。房。に。渡。り。去。國。を。滅。び。と。も
 今。の。世。に。平。相。小。清。盛。の。管。領。あ。る。が。所。也。と。さ。る。志。ある。者。も。後。難。と。懼。ま。て。就

糸。ら。び。の。ま。で。无。勢。に。在。る。ま。で。定。め。て。飲。び。の。ふ。ら。ん。と。心。中。に。終。を。常。胤。に。附。て。糸。上
 の。い。ま。さ。ら。ば。賴。朝。大。い。不。興。也。渠。は。曩。祖。賴。朝。の。所。由。り。世。に。源。家。の。恩。を
 稟。く。さ。ら。ば。其。と。で。は。と。早。速。小。連。系。に。さ。る。が。如。く。連。系。の。糸。吾。と。侮。は。に。そ
 ろ。め。因。て。對。面。に。終。は。さ。る。に。本。所。に。保。る。と。も。心。の。ま。に。あ。る。べき。と。案。の。外
 る。と。な。ま。さ。廣。常。大。に。喜。悅。し。且。天。晴。大。の。恩。は。さ。る。ひ。ね。と。感。服。あり。常。胤。を
 り。て。種。々。小。使。倍。れ。と。言。け。し。賴。朝。も。猜。心。解。て。就。て。廣。常。に。對。面。し。り。本。朝。通。記
 と。按。る。に。云。或。云。賴。朝。以。所。持。之。扇。歐。廣。常。之。面。三。也。と。云。又。の。初。廣。常。意
 計。賴。朝。敗。軍。餘。衆。未。足。計。若。無。將。畧。擄。之。獻。平。氏。焉。時。賴。朝。之。高。興。見。叶。人
 主。之。行。忽。變。害。心。降。賴。朝。於。是。賴。朝。漸。震。威。於。東。州。と。云。又。の。賴。朝。之。高。興。見。叶。人
 敵。り。と。の。人。説。い。る。ま。で。さ。る。と。の。右。ま。で。左。ま。で。東。及。の。豪。族。廣。常。が。屬。從。ふ
 と。安。に。及。び。り。と。と。池。來。る。と。市。に。保。ま。る。が。如。く。あ。ま。ば。賴。朝。忽。に。と。の。威。震



そとより謀念に入ると偏に廣常が功小極まりと重くこゝで用ゐる。其
郷に廣常功小終り。悉く元祿のこともあり。こゝで如三娘の族の虚を
頼朝に懐云をなすへり。元来狐疑深き君あり。是で懐くや當中に及
勇士と依をて是で謀せむ後を實とて知て頼朝大に悔みしと云ふ

按るに頼朝廣常と謀るは後にとの事の虚あるとて悔みしと東澄に
見えたり。但一謀せられず年月間て詳あらば結津が人物掌後に廣常
恃功驕恣漸頼朝被疏薄後命梶原景時圖之子良常称小権父
子並為景時所殺頼朝後知其冤とあると此を功小と嫉む例の景時
が所為あり

初め廣常大軍と率て頼朝に喝以てこゝより東及悉く應き終小府と謀念に
関きより偏小廣常が功小とあり。こゝに於て野遇を渥く股肱の臣の上小

主就中治業に年十月頼朝廣常陸征伐のに反敵の勢ひ強大なりて都從軍中に
後々々々計策とりて殊罰ありと云ふ。常胤廣常長澄實平との餘の宿老
群議あり。廣常縁者なりとて。ある事と計らふに太郎長政の参びべきと云ふに
弟の將者秀義の父に藤隆義も脱に平家の方にありとて左右ありに従ひむ
金砂城に捕虜はかくて太郎長政の廣常が誘引に因て大矢橋の中央に至は
この時家人等とこゝに退りめ及むと云ふ殊一なり。夫より秀義と攻討んと軍勢金
砂城小向ふ所。この城要害堅固にして輒く攻取む能はば秀義大敗を以てに
於て捕虜廣常一の計策と巡らして秀義が叔父佐竹虎人の智謀人小勝と云
ど欲心ゆき世に報ふ。こゝで廣常ゆき向ひ虎人小對面あり。んと東玉の親妹
と云ふ佐殿に屬く然るに秀義が誠意と云ふに敵討と云ふ細きなり。足下骨肉なり
と云ふ。遂に黨と順と替は天道に任あり。早く秀義と謀り遺跡と頼朝のいん

工勿備あり。美濃とあるが、忽ち地に禍ひその身に及ぶ。と言て巧に然くはる。美濃とあるが、
 速小次郎、城の法小廻りて関と参り、美濃防ぎ難きと知れ、城を棄て逃亡。要
 及花園の城小落し、度半一針小金沙城と屠て其功を彰せり。四十二日頼朝卿
 新造の故に也。移徙あり。その管作の間権次、度半が宅に在り。かくも親切あり
 時度半、豫て令て受け、弟従五十餘人と卒て佐賀、悪の漢に参る。會ひて也。度
 の兄とて齊一、弟従ひて家馬より下て道の傍に拜伏。是時に度常の馬小次
 あぐり、度常と致す。その間、二浦十餘人連へ、度常の前になける。が急ぎ下馬あり。べ
 一といふ小度常、敢て突入せむ。公私二代の旨、その後なり。とて終に馬より下りけり。
 ど何と令せむ。此處とあり。その時、二浦、度澄、腕版と奉つて盡て進め、上下沈睡の
 興と儀あり。と小園、神田、藤、美濃、美濃、水干と所を、さういふ、佐殿、刺、賜、や、著、て

へきうに命あり。我実面目身に餘る。ことを用おけるに廣常のく是と雖も我
 實不對ひてのやう。箇様の美服の廣常あどこそ拜領申すべし。用申すぬ足
 下等には分お違ふ。と惡言と吐ければ我實岐の故む大に怒る。汝廣常の作の
 功に誇る。その他を輕んぶ。我實が最初の功小維る及ぶのあらんや。と夫より双方
 言募る。我實を罵る。くゆえけと。君にののしり。今せうまは時に浦十郎を連我
 實と信と白殿今日君の亭へ渡らせのひ我實興てはけ。以て是のあらは。所前をも
 憚らば尾緒ある。奉勅を所存あら。後日と期す。但し老後の物狂ひ也。廣常
 申す。理あり。と判し。けし。夫小伏して双方言募て止めたり。我實が奉勅神妙あり
 と殊更所感あり。と。我實まど。我實廣常と。棄る。ぬ。あや。壽永元年。八月十二日。ある
 の別所。義所。四彦の節也。上総。我實。廣常の。墓目の。役と。勅めたり。その時。その子。小椿
 ぬ。我實。廣常。平安の。使。と。上。総の。一官。へ。遣はさる。その。若君。の。頼家。卿。か。て

五夜の候ハ廣幸沙汰せり。かく露幸と蒙るゝといふも。その身で願ふとあり。いふ
 露に終る。六終小孫老の古以に。今と昔とて遺憾あり。や。後の片言者
 の理と監むいあふ。うづ

按るに白居易が太行路の待に。とく云。近代君臣亦如此君不見左納言
 右納史朝承恩暮賜死。行路難不在水不在山。只在人情反覆間。と実に
 古今の確なるあり。古来今世和漢とも。君の賢小終る。と身で滅は
 る。百とめて等ふべし。繁きがぬに。ふい省く。

桓武天皇三代
 高見王二男高望
 王六代ノ孫
 平忠常
 千葉前上總介
 中村太郎
 從五位下
 千葉分
 常長
 上總四郎
 從五位下
 常家
 上總太郎
 從五位下
 常重
 千葉分
 常安
 白井六郎
 常胤
 千葉分
 母平政幹女
 日胤
 園城寺律師
 母正
 千葉分
 母秩父重弘女

千葉常胤

入皇八十六代土御門帝正治元年三月卒
 今安政三辰迄六百五十八年成

千葉常胤者柳營之老臣士林之
 甲族也鎌倉草創之時頼朝依恃之
 如父母西海東奥戰功籍甚

武家降林と按る。治承四年九月十七日。依殿下。総小向。い。あ。の。人。事。胤。嫡
 子。太郎胤。源。平。相。馬。降。常。常。武。石。胤。成。胤。大。頼。常。胤。五。帝。国。分。胤。送。六。并
 大夫東胤頼と。率て下。流。の。国。府。あ。て。奉。合。の。時。依。殿。常。胤。で。屋。右。不。招。り。ハ。須。く
 主。を。り。ち。イ。あ。常。胤。を。依。恃。生。る。と。父。母。の。い。と。あ。る。小。胤。へ。至
 司。馬。と。以。て。父。と。す。れ。由。と。傳。り。云。い。是。前。文。之。と。依。恃。生。る。と。父。母。の。い。と。あ。る。小。胤。へ。至

千葉常胤の伝

系圖に著せり。桓武の皇孫ありて世々下流の千葉に傳へ地の名を以て氏と爲さるに因て一族廣く最實東の剛勇なり。桓武以來源家の諸將東征して統るお及び千葉もまたその麾下に屬し。祖忠勳ありて志を傾けり。その源頼朝を誣ぐ小治の流人とありて殺すの里を以て還るもの脱に時至つて其兵を奉目代山本兼隆と雖も滅しんとせんと大庭保野が大軍に討つて終に敗れんと主従七勇士肥の堀に身で思ひ辛くも美鶴が崎より便船して安房小湊に據て源家に志の深かりける上流の常胤が方に渡りあふんと一民屋小宿し人々之下長校六郎常保ありて彼を急にお誘せ討奉つんと後しける。浦安濱早くもかり。逆考して討つと相度常胤が傳ふ中裁り。かくて安西景益が果るの趣きその日に懐へば則藤九郎盛長とて常胤が方に還る時おとと治景は九

月九日のとわりし今日に重陽也。葉の宴の節會あり。彼ときも賤きもの身程に祝賀せぬ。葉酒と酌て齡ひを延る壽でもあはれ日あり。唐土あてに貴長房が言葉によりてさきお登り。葉更で臂に懸て杯酒と飲む。和漢に祝を言ふるといふも頼朝の安免のきき定うるねどて是等の終でも行つた葉會ては後のとて如何せんといひ傳へる他あり。かゝる折々藤九郎盛長千葉より傳り来りておと在下令と奉つて千葉ぬが門にお到り案内といひて其処執事の近侍廣間小幡と據て常胤の中にお坐れ在り一族所從中控へり。かくて作の趣きで逸くに演る所常胤は眼をさし更にとてささる如く在下不審存ざるおと子千葉大郎胤正二男二弟相馬陣胤言葉を以てて中をさす。依殿虎牙の赤い顔。頼朝と往めり。最初にまづ葉家と見えて頼朝好むと忘るるおと。是れおと腹腹せんと何ぞ遅くにもおと。速にお言葉を。あつてとて



けしき平胤の時服せむき一坐せしき。荒示し其に遠く上る古の如く。
源平兩家君と守護。互に暴逆のてあるまふ。彼を
征して此小換。一旦左典廐猛威を以て東及小揮。由は信賴が暴
小換して二門滅び。通達する人。或ひは流さる。名と程。有ども更にそ
かやく。平家頻る小警。二十餘年の春秋を送。二門高。位官小昇。直
天子の四外威。萬機を掌の中。握は在下。先君の爲に。いそぎを愧と
いふ。如何し。中まき。空く。紅涙に沈む。所佐殿。く。中。兵を奉げ。
ふ。い。つ。の。う。一。敗。敗。い。い。は。方。定。う。あ。び。と。世。の。風。吹。く。ま。あ。く。
如。い。に。あ。り。あ。き。ひ。けん。と。その。音。信。と。候。ふ。お。り。も。右。の。使。に。頼。る。奈。何。う。え。
小。若。ん。ま。ぎ。一。族。弟。従。て。引。俱。一。社。来。ド。い。べ。源。家。中。終。と。興。さ。せ。り。人。感。涙。眼。
に。遙。は。し。勇。と。熱。び。と。ま。う。と。杯。酒。と。出。し。猶。種。く。に。終。る。折。う。ま。時。の。出。

在所と義はふ。さる要害の地にあり。ま。是。出。暴。跡。小。あ。る。と。速。に。中。生。
て。後。さ。と。相。及。孫。念。に。入。り。人。被。処。い。地。の。利。他。小。勝。つ。て。大。業。と。創。め。り。小。座。
竟。の。所。あり。在下。不。目。小。所。逆。の。爲。来。向。ま。き。の。う。号。も。言。と。い。と。述。け。と。ぞ。
依。殿。と。始。と。金。飲。び。の。眉。と。周。り。かく。平。胤。一。族。と。集。め。脱。れ。お。ま。ん。と。ける。
とき。東。六。席。大。夫。胤。頼。父。小。對。ひ。て。言。ま。さ。う。ま。玉。の。目。代。い。元。来。平。家。の。從。臣。之。
今。ま。家。境。と。難。と。依。殿。へ。来。る。と。波。波。あ。る。と。忽。地。小。音。と。對。面。ん。と。軍。勢。と。出。す。べ。
し。さ。す。ま。ひ。坐。ひ。林。牆。の。裡。より。奔。つ。て。難。免。た。う。ん。若。ト。渠。に。先。達。て。ま。渠。と。責。せ。ん。
あ。い。と。は。て。平。胤。頼。さ。う。う。く。と。心。を。う。け。と。さ。う。ば。速。小。攻。べ。と。胤。頼。に。甥。の。小。太。弟。
胤。胤。と。割。て。弟。從。者。二。百。餘。騎。と。さ。う。白。ける。胤。頼。當。て。馬。と。死。せ。月。代。の。時。小。お。
よ。せ。是。の。千。葉。公。平。胤。が。六。男。東。六。席。胤。頼。及。甥。の。小。太。弟。胤。胤。之。遠。田。右。兵。衛。
佐。頼。朝。卿。院。宣。と。蒙。り。の。ひ。き。く。も。召。小。依。て。被。田。陣。へ。来。る。なり。定。て。を。許。小。中。

同家おるく同道せん為に事なり。と高らかに述べ目代はて矢倉に登り。
遠い奇怪なりとて、彼のりるか吾君と作ら所へ悉く由桓武の末裔宮内太政大
臣お至り。今上帝の外祖父なり。事で桓朝宮と齊しうんそ件等由二十餘年。
恩澤を被りあがり。忽ち怨敵の思ひて事余奇怪なり。と言ふ。彼の被る
那胤頼との事あふ夫一筋。あうせんといふまに三人張ふ十二束切て放て目
代へ身で及けうけきと傍ある那從が。胸板を射貫きて。美逞に挫と落きて。
目代は膽で冷し。二言ともおび矢倉で下る。み勢に下知て傍る所は那多勢
なりけし。胤頼が少勢懼るに足せ。と門をうち固め。差結ひて結ぬに射る。
う得の胤頼放胤も。味方の僅二百餘騎。敵の千騎に餘るの。城の中を所がな
はかていあぐ力及む。時刻で移さ。四方より。まさ援兵も来る。と信と沈吟と心
利さ。兵に命でたて掛さ。折し。北風烈あ。と矢十方に飛散す。忽ち彼に接

るより。目代とて防んと右性左性に表め。同胤頼放胤勢を逆め。怒る
く城内お入て。終に目代と謀り。こみ判官代親政へ同金千圓の莊代頼
家なる。右判官卿忠盛朝臣の聲あるによりて平家お親し。さうとて彼より中
在るおひ勢で引率し。目代が急を救ひ。いふ胤頼天子を討て。勲功にまさむ。と
彼は操で弛来る。小太尉放胤を智。右ある藪蔭に兵を伏せ。靜まりかへて在ける
が親政いかくとも知る。目代が牙の火のふとを。五三三に蒐さする放胤のま
程に放と遣還と時分なり。と暴お関で作らう。仕と叫て蒐出さ。思ひのまぬ
親政勢。族も同輩で隊伍交れ。所で得るや應。とうち固を責。親政自
身太刀拔。一霎時い支えうけき。と勇切。千葉勢が。極威失。てまを難く
脚離て。かむり。膝む所。小太尉放胤。弛落て生捕り。こみ於て。河軍。忽ち藤原
より。同十七百勢揃。と佐殿来る。と。然るに。目頼朝卿。由。常胤が来る。と。信む。

下流の國ふ入るべ端あり。路次にて性あり奉は千葉の方の一番に常胤次女子
千葉太常胤三男ハ次郎相馬時常二男ハ三郎武石胤成四男ハ四郎大須賀
胤佐五男ハ六郎國分胤道六男ハ六郎大夫東胤頼嫡孫小太郎成胤系圖に據る太常胤の嫡子なり
て先づ宗院の從兵言餘誘下流の國府にて相一奉り則今度生捕所の判官代
親政と献。且目代でける赴き具ふ演説一奉つる頼朝深く歎びひまふ。常胤と座
右に徴。且下が誠忠懐ても知る。これ幽囚の身に在る。悉くも院宣で賜り。不月
兵を發しと。微力にて奉。急遽せ。忽北浪客とあらんと。然るで奮功と忘
と。一族で卒て奉。會の奈何事。是に若人。頃り。司馬を以て。父とする。けし。作らる。
按る。司馬。諸國の受領。大少掾の唐名なり。父の唐名。長吏といひ。また別名と
ひ。常胤千葉。ある。これ。唐名。司馬にあら。ば。然るで。諸本に。司馬と。云え。り。
常胤。感涙。肝に。傷。下。拜。謝。と。在。ける。が。頼。て。常胤。座。を。立て。二人の。弱冠。と。伴。ひ。奉。り。て。この

人。て。以。て。今日。の。所。贈。物。と。思。さ。る。是。い。と。陸奥。六郎。長隆。が。男。に。て。毛。利。冠。若。頼。隆
なり。と。言。ひ。ふ。り。記。の。人。ハ。紺。村。濃。の。直。垂。と。云。ふ。小。具。多。と。加。へ。ら。る。常胤。が。傍。に。坐。ま。す。
佐。殿。と。ま。す。と。思。ひ。ふ。む。是。い。如何。と。向。ふ。が。長隆。の。君。も。知。ら。ば。為。後。公。の。末。子。なり。
平治。の時。出。火。る。長。相。君。と。都。で。落。致。畢。戦。に。か。つ。る。ふ。大。衆。の。流。を。夫。中。に。王。の。ふ。
同。て。長。相。の。首。と。討。湖水。に。沈。め。の。ふ。と。云。ふ。下。の。君。府。と。出。て。い。ま。滿。く。五。十。日。
さ。と。も。男。子。と。る。に。因。て。下。流。に。流。さ。る。ふ。て。常胤。密。に。扶持。し。奉。り。せ。三。二。家。に。あり。
久。河。源。氏。の。胤。子。と。言。ふ。頼。朝。大。小。歎。び。み。と。揪。て。千葉。公。が。上。座。に。誘。ひ。ひ。常
胤。が。誠。忠。と。ま。す。感。下。の。ふ。と。云。ふ。是。より。後。頼。朝。卿。孫。余。へ。入。る。ふ。及。び。父子。昆
才。忠。と。謂。し。元。暦。元。年。本。曾。進。討。の。とき。大。將。範。頼。の。隊。小。從。ひ。尋。で。平。家。と。攻
む。の。將。も。生。田。に。向。ひ。八。幡。に。赴。き。忠。義。軍。功。比。類。す。因。て。卒。く。用。ら。る。と。傳。余。才。一。の
老。臣。なり。か。て。後。文。治。六。年。頼。朝。喪。及。進。討。の。田。沙。流。あり。這。の。時。頼。朝。と。そ

なり。のぞ軍議定まると。同七月八日常胤より。新調の旗と献ぎ其長は故入道頼朝の寸法小徴ひ一丈二尺三幅なり。まゝ白糸の縫物あり。上の方に侍勢太神宮八幡大菩薩の神牌と記し下に山姥三羽相對せ。その古老勇士とゆひ多き中と千葉公幸胤に。その儀と侍付らばは治承四年の秋常胤一族と從て出陣へ来りてよりと毎く諸公武威衣服。大樹の任に至るの例と思へば及てをかくて。及へ奈向あり所と合戦ありて船泊の宿に逗留し。常胤の海邊の大將軍とて八田右衛門尉頼朝家と曰く出陣へ来は。そより軍功は頼朝。その後頼朝平定して。諸氏系衆と唱へり。建久元年十月二日幕府上洛の時中。先陳留山重忠後陳留千葉公幸胤なり。同十月七日入洛あり。法皇慈ひて殿座ある前後の從兵華やある上に後陳常胤一族所從今日と晴と綺羅と膝に除くと打くる在る。實に豫金の老臣やと見物の貴族上下あつて威ありとある

三浦大介義明

一男

平義宗 杉本太郎

義盛 左二門尉

常盛 新左門尉

義氏 和田二郎

義秀 朝夷三郎

義直 金左衛門尉

義重 和田五郎兵衛尉

義信 和田六郎兵衛尉

秀盛 和田七郎

義國 和田八郎

和田義盛

八皇八十四代順德帝建保元年五月伏誅
今安政三辰追 六百四十四年成

和田義盛者屬頼朝麾下往々有

軍功司武士衙

本朝通記に按るに建保の乱義盛族滅の条にのり。義盛属志於頼朝以往東州處々困厄相隨不顧其躬。南州西海之役。戦功不少。由是頼朝使義盛司士衛軍政。賜賞甚厚矣。是頼朝報義盛之勲功不淺。然義盛不知臣子之可守之所。狹舊功。任思隨情恣上訴。以不任其望之故。怏々遂逆計。却禍其躬。赤族矣。古語小人有非常之功。不幸也。吁。吁。信哉。と見えり。然るにその奉北條氏。奸不仕り

和田義盛の伝

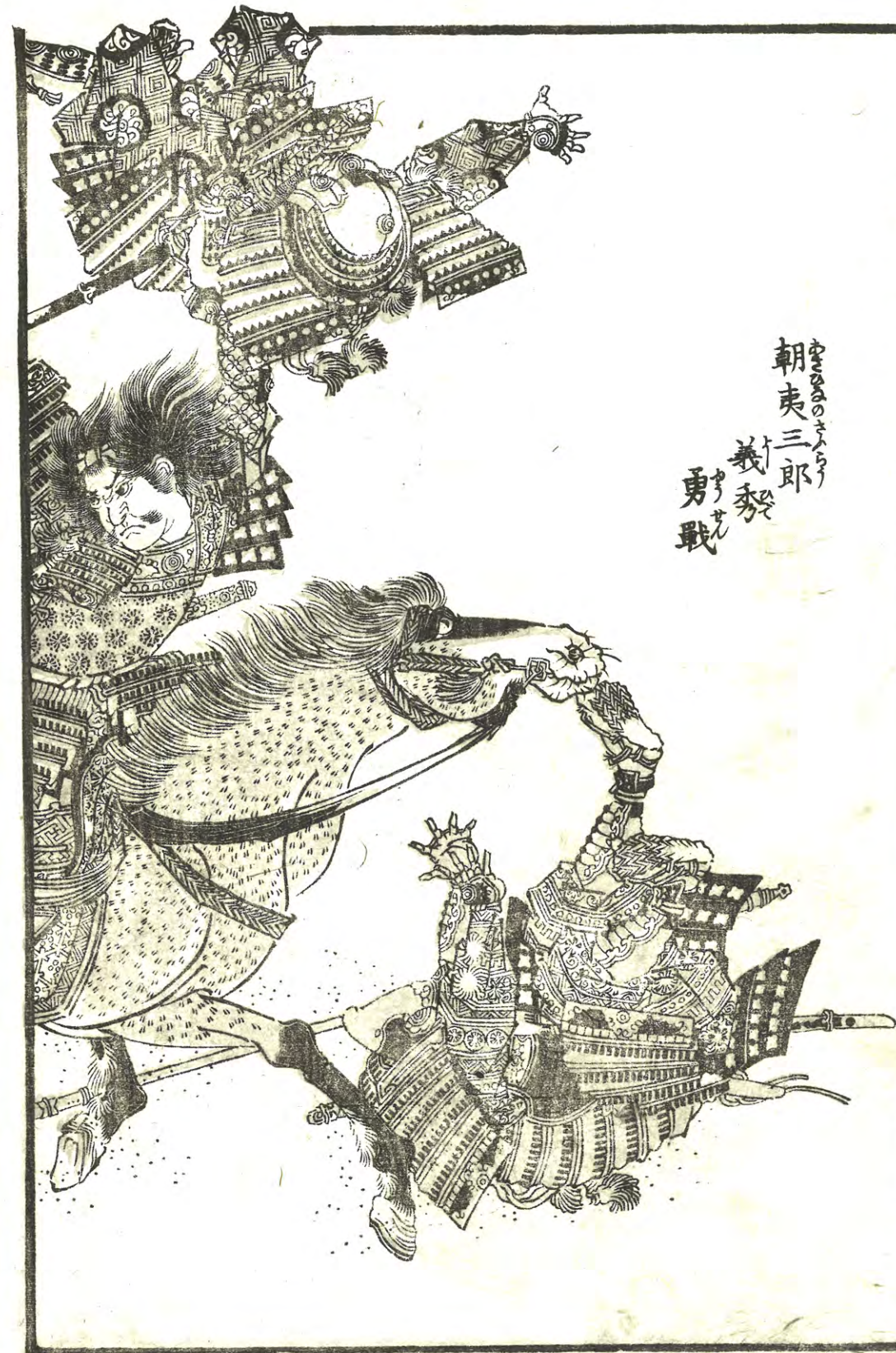
頼朝義兵と揚のふとき。徴小園て三浦の人々。治承四年八月廿二日。三浦次郎義隆
と姉と。和田太郎義盛以下救軍の精兵相撲ふ。三浦と奔りて。依殿へ来んと。然
るに九子河洪水あて。左右ろく。濟まがけ。と。皆く。不。注。ま。る。と。依殿。石橋。小。敗
軍。と。落。り。ふ。と。吹。や。う。う。今。い。給。方。な。く。て。引。返。り。ふ。と。由井。の。漢。を。以。於。て。畠。山。次
郎。重忠。小。ゆき。あ。人。因。て。ら。あ。挑。こ。戦。ひ。重忠。が。部。從。五。十。餘。輩。討。ま。け。け。と。バ。力。な。く。
重忠。は。武。能。に。得。り。三。浦。の。勢。も。本。所。へ。引。り。重忠。救。な。く。三。浦。黨。に。負。へ。き。ふ。あ。と。ね。ど。
と。流。權。以。度。市。が。才。金。田。小。大。夫。頼。次。が。七。十。餘。誘。お。馳。加。里。三。浦。が。兵。威。と。投。一。般。なり。
重忠。熱。かり。や。う。父。重。能。叙。父。有。重。京。洛。小。り。や。そ。相。國。の。恩。と。彼。ふ。る。そ。の。子。と。て。
是。と。と。以。見。え。さ。ん。の。忠。に。あ。る。べ。且。い。先。日。由。井。が。漢。の。恥。辱。と。も。雪。ん。と。妻。女。に。名。あ。る
人。河。越。を。部。重。頼。に。戸。太。郎。重。長。葛。西。三。郎。清。重。稻。毛。三。郎。重。成。榛。谷。に。本。重

頼朝金子十郎家忠等と姉と。其勢三千餘誘と卒と。衣笠の城へ押寄り。三浦の
人々是とて。い。と。防。戦。の。准。備。せ。よ。と。そ。と。く。の。隊。配。なり。和田太郎義盛は。西。の。木
戸。と。ぞ。獲。り。ける。あ。ち。極。威。と。揮。ひ。や。因。と。揚。て。責。蒐。る。三。浦。の。面。こ。と。先。途。と。防
ぎ。戦。ふ。と。疎。る。う。ね。ど。軍。卒。等。矢。射。と。失。ひ。力。竭。て。そ。の。夜。半。抜。く。に。落。う。せ。て。殘。兵
幾。千。も。あ。る。と。り。ける。と。か。て。い。奈。何。ふ。か。り。ふ。と。防。禦。協。ひ。が。う。ん。と。緒。ね。果。と。る
折。う。と。三。浦。大。助。義。明。そ。の。嫡。子。義。隆。お。び。義。盛。以。下。一。族。と。う。ち。招。て。言。す。や。う。敵。は。さ
り。大。軍。な。る。う。へ。軍。兵。暴。に。落。う。せ。て。汝。等。の。に。かり。ふ。と。も。と。あ。此。久。の。防。ぎ。が。と。けん
と。一。ま。づ。と。宥。き。と。と。令。う。と。依。殿。の。出。跡。と。尋。ね。奉。り。源。家。再。興。と。計。ん。あ。い。
頼。と。そ。の。用。意。と。あ。せ。天。明。て。怨。敵。に。方。に。犯。ら。る。翼。な。く。と。逃。は。れ。ぬ。と。急。ぎ。計。ら。ふ
と。あり。ける。と。人。々。も。実。中。と。かり。ひ。既。に。そ。の。准。備。と。あ。義。明。と。も。伴。ん。と。と。大。助。頼
と。左。右。に。う。ち。揮。り。う。と。と。源。家。累。代。の。家。人。と。と。そ。の。責。任。再。興。の。時。不。應。に。老。後

の歎び何ぞかへん哉。此れも吾八旬に餘る。身體疲乏。行步協つ。終今のやども
限るあり。然るに僅生延んとて。汝等と俱に落るる。半途おて。教小諸の可憐
き弱冠まで。さう為に張らせん。さう忠にあらざる。我小あう。い。恥辱と重ぬる
の。吾の城に遺る。潔く討死して。その忠と全うせん。汝等少くも教後する
となく。一刻も早く落失よ。と。そのの所。理あま。と。不得小。老父と遺をきて。落んと
て。心小。思ひ。種く。い。ひ。縣へ。伴ん。と。あ。け。さ。う。我。明。大。小。怒。り。長。給。緩。小。時。と。後。さ。う
苦心の水泡とやあ。ん。汝等も。三浦の一族。阿。容。と。と。城。と。落。ま。さ。吾。あ。う。て。討。死
する。の。の。宣。し。さ。小。隨。ひ。て。君。と。救。れ。ん。と。の。と。な。り。と。あ。う。て。曉。ら。ん。婢。女。子。に。一。別
と。と。惜。し。て。時。と。失。ふ。と。の。心。あ。の。君。の。大。事。と。救。れ。ん。と。の。言。未。な。り。捕。獲。て。左。右。と。子
に。あ。う。と。孫。小。あ。う。と。と。思。ひ。切。て。い。ふ。と。ふ。人。と。獲。の。袖。と。絞。り。さ。う。が。今。に。従。い。ん。と。心。あ。う
び。の。老。父。と。遺。し。擲。き。す。り。落。失。る。か。く。と。も。あ。う。て。あ。の。の。大。軍。今。日。と。そ。の。と。言。ふ。と。あ。

其。後。の。明。と。候。つ。け。て。混。と。と。あ。う。て。城。々。の。現。し。か。困。き。更。に。人。あ。り。と。も。見
え。さ。う。と。い。ふ。地。小。所。と。と。あ。う。て。教。の。孫。計。う。と。左。右。と。く。入。兼。て。時。時。動。靜。と。窺。ふ。に
実。小。虚。し。き。容。あ。う。と。備。の。防。守。の。怖。ひ。か。た。と。自。ら。曉。を。落。し。あ。う。と。進。入
る。人。い。あ。う。か。て。城。内。に。入。り。て。見。ま。さ。三。浦。大。助。我。明。と。一。人。正。面。小。在。る。寄。来。る
故。と。磨。き。各。の。勇。威。烈。く。と。是。と。防。ぐ。に。新。あ。け。ま。城。中。の。老。き。を。落。し。う。但。一。吾
ハ。八。十。九。歳。老。今。の。憑。こ。ま。け。ま。さ。う。小。残。を。討。死。す。る。と。吾。と。思。い。ん。人。と。言。せ。合。せ
て。首。と。把。ま。と。大。者。に。呼。り。け。る。と。あ。下。河。城。に。其。の。所。近。近。と。て。討。取。り。の。呼
ぎ。義。あ。う。と。我。明。社。主。の。一。族。と。て。君。の。為。に。城。と。落。し。其。の。ハ。注。つ。て。小。死。は。勇
と。墮。さ。び。忠。と。失。い。と。嗟。の。行。難。う。と。か。て。三。浦。の。人。と。い。海。濱。小。到。り。舟。に。り。乗
安。房。と。并。て。漕。ぎ。る。海。上。小。放。て。北。條。父。子。時。政。長。清。我。明。近。友。七。回。平。等。に。行。あ。い
々。互。小。敵。び。漕。連。ゆ。大。庭。景。親。千。騎。と。卒。と。三。浦。小。攻。未。了。と。う。と。と。あ。う。て。あ。う。て。あ。う。て。

朝夷三郎
義秀
勇戦



細美秀



とあるのち、
渡海の後、空しくして処て引返は、爰に佐殿へ土肥次郎眞平が計ひし事、勢が活
より舟小なり。安房五平北郡備前に著るふり、北條弘下之浦の人々各々小あり余ひ
すぶろ うつわん むらト きん のち、そのころにてい ああき
救日の誓念と一時小あり。とまより後の縁こそあつて衆強せしほ。この時和田太郎義盛
すばを まう のぬきこあや のか あくさんそふ ぞう。ガ てんえん ひよう
進み出て言ひ申う。今君をさきて還きのひ。このあそ各未合する奈実、天運の雲は、
時にありひ之猶此う入在下等身令と抱て君で守護しあすべし願ふ所世治
まりて後侍所の別業に補せしとまお生前のをまと思ねと必ひ入て逃げもば佐殿
めー あやう ことす 一とう ふうく あんのを のぞ まう すまき
し、そしてこの職の容易うなる所重下と草創のは年久その望ま任せざんとと速に所
許容あり故小天下一の流の後義盛との職小在けるなり。さまは治承四年十二月十二日、教
諭会新造の内殿、西夜徒の民ある時和田小太郎義盛は最前に所前へ候じ。供
奉の面々車果と後侍所十八間小二行に對坐あけけるをり。義盛別業などりて其
中央に候じ著到としあん号より後本曾退討尋で平家と攻る以及ひ大將は範頼の

て ぞい ちやうせん ちやう
隊に属し。忠誠を励むと。諸書不譲して。小省く。最大功ありより。建久元年。頼
朝卿と洛あり。右大納言住せし。所家人の。うち有功の者。左右衛尉。左右衛門
尉に補せし。は。き。う。勅。授。あり。右大將家。以。辞。退。む。と。勅。令。再。示。及。べ。り。て。
十人。で。中。給。ふ。とい。ふ。あり。和田。小太郎。義盛。と。左衛門尉に補せし。と。り。是。より。肉。文。治
五年。奥州。泰衡。征伐。の。とき。義盛。も。出。供。なり。同国。阿。波。賀。志。山。不。滅。ひ。賊。と。殺。と。き。
城。の。大。納。言。西。本。多。國。衡。の。うち。負。て。城。に。還。電。あり。大。雲。山。で。賊。え。大。高。官。に。か。つ。出。羽。道
と。還。つ。て。落。ん。と。志。を。表。下。義。盛。に。進。付。て。様。多。く。後。で。い。せ。何。方。で。存。て。落。中。ぐ。ぞ。故
の。大。納。言。と。い。ふ。僻。目。の。返。せ。と。喚。り。け。し。國。衡。は。て。鏑。を。か。し。物。でも。め。は。十四。米。の。
矢。を。挟。え。義。と。射。出。し。義。盛。の。矢。得。たり。と。身。を。反。け。て。こ。き。で。外。に。は。く。矢。を。け。て。兵
と。射。る。國。衡。の。初。矢。を。射。損。下。二。の。矢。で。うち。は。つ。ら。んと。する。所。に。早。く。も。和田。が。矢。飛。来。り
て。後。の。射。向。の。袖。で。透。し。腕。中。つ。て。立。ける。や。ど。に。義。盛。快。り。と。一。戦。あ。て。即。坐。に。死。を。

卷之二十一

新石の神を

いよて四代將軍となり権柄で恣おせんしするに然まじも緯成らむ縁計幾ぞある
ふより朝雅も縁せうは然るに將軍家出憤し深く時政のふ義時よりて執権に
さきなり是の外戚の縁に因る。更お賞罰あきか如し脱に畠山重忠は是より爲
小滅亡の舊功のほ小放る義登より先達とま然まじ是等の可否でさへ論べき
身あづも尼寺甚藤中お事とけりい廣元善信上に在て政事と執りよりや
登るはよりとも。諸士の別あて。その任あづるゆゑ安に口で用ひて心中
小北條一家の悪逆で憎むのこふ放て動もすまじ北條が我を推ん爲面前
て義時等と辱むるに辱は是より尙重忠父子と縁戮の刻と始め建久元年冬十一
月義時領地の勇士と撰に徒士と号く將軍家の諸士の同席に居らる北條家に
奉公させんと脱小尼寺甚藤元善信等祖をてに共けきと。義登渠が隠縁を
前知一人拒て止め。まゝ善哉君い頼家の末子とて管中に書いと実朝の

傍に小居らるむ義登後來の難事と必し辱とて練めけるふ義時聴て其の
所理ふいふども初ては義登が志の立んと嫉と妨あづるべと拒こり。尼
寺甚藤中お事とて辱とて善哉と并まらぬ僧と。父子となりて出家せむ
一説ふいふも是より尙善哉と怒が忌別家阿闍梨を曉の才子とけ。かの坊
あるとけきと今回管中へ招きあふと云
あ之餘種に北條が我を小養と推んと。辯論なれにむびうと。義登いふ理と説
て脚指のてとあけまじ北條頼朝にこそと憎と。事に害心と懷たり。然るに義登
上院の国司と望こすことありふ義時拒て許容せむ。その子泰時と練め義登
あどの光功の后。通この望とて果さむ。吾一家と怒む。義登が頼朝の餘義なり。俱
小執成て之小應せむ。君おますく忠と期。義家小由疎をあづるに曲てけりい
ねと再と練めよりけきと。義時偏執の余きふより。終ふその望と空くならむ。義登

も北條が妨とて悟る。中にて憤り。折々泉親衛。北條が仇悪
と憎。ことと滅びて湯もせ。清せんと思ひ。叔頼家の千幡で守立て大
將軍と。一味の者で多く悟らひ。兵で奉んと企て。青栗に郎時光が弟阿蘇
房安然。心割ある法師ゆゑ。こととて孫余小姓。同志の者で悟らひ。まづ和
田平太親衛に。惣て親長。兵隊あく合所なり。兵隊の男四郎左門。兵隊及び六郎
兵衛。兵隊重と悟らひ。あゝ肺肝を以て同忘せ。む人多し。こ小由利仲八郎
惟久。ありの一味合所にあり。あゝ暴小。あゝ心あて。あゝこととて千葉公成。親衛小若。成親
清き。惟久とて安然と欺き。捕。拷問。まじと曾ていふ。元より針策。由利で
も。拷問。由利若。兵隊さる。懸て盡く首伏せ。因てをまじに討て。さ。向け。或
討。或ひに捕。親長以下。是とあづ。欺。まじ。擣ら。張。親衛。擣めんと。上藤十
郎。助友。奉。集。が。孫。彼。に。あ。る。小親衛。主。従。十五人。大小。あ。る。と。悩。と。助友。と。切て

後。親衛。手。処。より。逐。電。せり。こ。小。於。て。和。田。平。太。親。衛。と。こ。の。隠。條。の。張。本。な。れ。と
嚴。く。番。兵。で。防。ら。ま。て。然。り。餘。黨。で。探。索。し。張。本。始。め。一。家。の。人。と。大。小。張。き。親。長。及。び
兵。隊。重。全。く。疎。忽。と。存。在。さ。る。れ。ど。兵。隊。の。思。慮。も。あ。る。犯。人。等。に。荷。擔。の。条。其
親。衛。ら。う。る。所。あ。ま。と。曲。で。原。免。の。山。沙。海。で。作。ぐ。と。奉。て。懸。訴。し。ける。ふ。より。父。義
登。が。無。罪。と。愛。で。ま。直。義。重。兩。人。の。恩。免。あ。る。下。の。令。に。よ。り。義。登。元。後。の。眉。目。で。施
一。款。ふ。小。於。て。親。長。で。の。言。一。寄。め。んと。その。翌。日。一。族。九。十。八。人。で。引。て。南。庭。小。列。せ。ね。し。
是。と。懸。訴。し。ける。に。親。長。は。今。夜。の。張。本。殊。小。種。の。計。畧。で。廻。り。争。う。出。陣。容。あ。る。き。
と。其。數。額。懐。の。の。こ。う。親。長。と。面。縛。を。一。族。の。前。で。引。渡。し。一。誠。判。官。行。村。小。清。取
り。め。陸。奥。岩。淵。へ。配。流。せ。る。は。む。是。張。本。次。才。と。あ。ま。一。族。寒。く。と。選。き。ける。が。親。長。の
宅。地。在。柄。小。あり。因。て。脱。逃。の。面。々。所。近。き。ふ。より。是。と。擣。ら。んと。も。あ。る。あ。る。然。る。に。義。登。一
族。も。親。長。が。宅。地。と。と。餘。人。小。擣。め。ん。い。ま。念。の。こ。と。在。下。に。擣。め。ま。し。の。願。ひ。小。因。て。且

梶原景時の話

景時大庭が陳ふあり。佐殿と遊嬉て土肥の堀に攀登す。此処彼処探せど見えん。こ
 小入る木の洞あり。恙の中あゝんば外小所在あぶらぐ。景親進まんとする所を。
 梶原景時先小進。在下從て来んと。僵木の洞の邊に至り。其の管を横へて穴の中へ
 探ると。隠れかり。障り。佐殿破壁とわひひ。梶原の佐と腹腹。知れ顔
 して。速き大庭小對ひて。中。更。人。氣。なり。い。大庭。い。不。需。と。さ。さ。さ。
 在下。今。面。性。て。えん。と。身。と。動。せ。景。時。前。小。進。て。遠。い。下。で。其。心。あ。者。と。あ。り。と。
 腹。と。睨。り。若。ら。洞。小。入。る。若。あ。る。下。で。對。ひ。なり。と。太。刀。の。柄。小。み。と。挂。て。猶。白。腹。て。あ。り。
 け。と。景。親。若。と。争。ひ。足。下。が。心。と。疑。ふ。き。け。外。の。津。と。探。せ。と。軍。兵。數。れ。け。る。
 間。小。頼。朝。へ。と。出。永。実。房。と。案。因。と。て。管。根。小。至。る。ひ。と。さ。より。実。平。が。針。ら。ひ。
 若。と。美。鶴。が。誘。り。系。船。安。房。小。至。り。下。流。小。立。城。え。程。な。く。運。と。若。と。け。れ。ば。實。小。景。

時。哀。憐。と。得。ま。ば。今。ま。令。活。ん。や。と。深。く。其。德。と。感。ド。り。と。小。於。て。治。承。五。年。正
 月。十。日。土。肥。実。平。が。執。達。に。より。て。景。時。と。始。め。所。前。小。召。さ。さ。と。其。め。日。の。飲。び。あ。ど。
 若。と。ひ。号。より。長。く。君。臣。の。約。と。固。め。さ。せ。ひ。り。か。て。景。時。が。言。語。無。き。爽。小。
 と。一。座。の。武。夫。なり。と。称。ひ。股。腕。腹。心。と。え。み。の。さ。に。因。て。武。田。太。郎。信。義。と。
 對。面。の。さ。と。浦。下。河。を。佐。の。輩。と。同。席。小。在。て。若。と。で。獲。る。嫡。子。源。を。景。季。
 也。他。事。な。く。傍。り。に。使。り。と。養。和。元。来。四。月。七。日。此。頃。種。く。の。浮。鏡。多。く。以。乃。の。上。
 大。事。な。ま。は。弓。箭。と。把。て。人。小。勝。と。心。小。阻。あ。き。り。の。毎。夜。也。寝。所。小。相。結。べ。と。
 宣。ら。る。其。中。に。景。季。と。擇。び。入。ら。ば。か。山。懸。切。な。る。に。より。て。景。時。心。中。に。濡。と。生。ト。潜。
 小。我。若。と。振。舞。ふ。と。い。と。維。あ。つ。て。替。む。若。と。若。い。ま。す。く。露。を。深。く。集。ま。ま。じ。
 若。と。の。善。惡。と。な。く。大。小。と。な。く。用。わ。れ。ぬ。と。さ。な。け。は。景。時。漸。く。威。と。揮。ひ。
 人。と。人。と。思。ひ。る。舉。動。も。多。う。け。る。運。轉。の。遠。恨。小。義。經。と。絶。言。さ。り。中。大。功。あ。る。



佐殿
招山
隠

平家と鎌倉中に入りしに腰刀より逃返さる。まづ乾頼と鎌言し終ふ自盡さる。まづ鎌倉の時が安悪の。中より出るなり。君が同根連枝とてふ所のてくを頼。小堀の御あまは現てその以下の人々を彼が長き小雁り今で潰し或ひは君の勅令で彼らも尋るふをよと發于ぞ。逆船のてのに碑小傳へて普く人の心をいど。その大畧をいふ現に押九郎判官を經頼の人のたし。平家と二谷小逆頼。漢面小於て平家の諸將をさるべき人々を多く討とりて宗盛以下放逐。初登その後の殘兵小よりあり。讃良小落ゆき四國小渡り。まづ九及小到りけ。まづ彼も障る人もあり。まづ讃良屋小傳り。こふちのて中必に死に。或ひは四國で停るを再び移る小擬んとす。まづ経とてはて元暦二年。正月十日院未。なり。大藏卿泰經とて云のより奏せし。まづ退治忽ちなり。亦天下の乱と。かゝん今及罷り向ひに。平家の輩盡く殊戮せんと。王城へ再び傳入に。下と

思ひ入て述べ。法皇大御所感あて。そのまじふ夜と日小速に殊戮。三種の神器事ぬる。洛小返入。と勅定まじふ畏り宿所小傳り。關東の武士と集會て漢院。まづ左右存ざる族ハ鎌倉へ還くべし。と宣ひけ。まづ兼子。もあつた何方までも。世に仕らん。争うて鎌倉へ入るべき。とて決て中より。さう。まづその姓を著到て。紀さるに遠江守。宣定と。と。浦園。清和。田の面。土肥。畠山。滋谷。熊谷。平山。依木。梶。系。平。と。果時。も。その列。ふ。總軍。勢。一。萬。餘。と。と。紀。さ。ま。し。ける。

按るに。是より。為。鎌倉。の下。知。と。九州。の。成。敗。ハ。清。冠。若。乾。頼。中。必。の。成。敗。ハ。土。肥。次。弟。實。平。京。都。の。守。護。ハ。九。郎。冠。若。者。經。頼。動。む。き。り。今。せ。う。と。それ。小。下。向。な。ま。し。つ。た。也。あ。る。ま。づ。兼。子。の。時。小。洛。小。在。い。ま。ま。小。快。へ。り。但。土。肥。次。弟。實。平。の。軍。小。送。が。へ。し。傳。聞。の。報。さ。う。然。ま。づ。中。の。後。辺。あ。て。兼。子。の。ま。づ。土。肥。

後日。まづるに把き番。高山の梶原と把き土肥次郎の源太と番め。多くは五郎
 平次は把き番。の條最奇怪なり。今大事と前ふれた。士付せんと。猶も。軍中に
 於て利害といふ各忠義あり。のて。あつて。五郎平次と。夫なり。五郎平次は。縁金殿へ
 えて。日徳あり。静まり。久し。と。揃へ。中。以。ふ。より。て。判官も。怒。解。て。静まり。久し。梶
 原父子も。静まり。ぬ。かく。て。後。梶原父子。い。後。終。小。比。基。別。長門。國。小。在。ける。浦。殿。小
 ぞ。あり。ける。さ。そ。と。そ。と。深く。恨。み。を。終。て。終。ける。基。と。そ。い。かり。ふ。け。は。夫。の。と
 な。ず。浦。殿。へ。え。未。温。順。あり。て。その。智。量。を。終。小。比。基。と。そ。い。かり。ふ。け。は。夫。の。と
 て。付。一。平。家。と。滅。と。その。功。績。と。あ。る。小。園。で。縁。金。殿。も。厚。く。賞。し。連。枝。の。ち。の。一。ふ
 所。より。梶。原。の。榮。榮。と。旗。を。折。め。ふ。べ。と。思。ひ。ける。に。富士。野。の。巻。將。の。と。兄。曾。我。の
 兄弟。と。結。依。終。と。付。ふ。及。び。假。屋。盡。く。發。動。し。脱。に。縁。金。殿。の。假。屋。へ。も。入。ふ。及。び
 六。以。の。外。小。の。い。置。は。風。は。強。き。あ。る。と。い。ふ。縁。金。殿。小。比。基。と。縁。金。殿。の。面。に。破。裂。と。そ。い。ふ。

かけ。と。そ。と。下。へ。と。強。き。あ。ひ。ぬ。この。時。範。頼。へ。縁。金。殿。の。四。番。守。居。あ。て。あり。け。は。
 是。より。當。中。に。到。い。と。その。發。動。と。静。め。ん。と。あ。る。や。兄。頼。朝。卿。系。一。不。慮。の。と。あり。
 と。も。範。頼。か。て。あ。る。な。ま。は。後。の。と。心。易。く。と。静。め。ん。と。判。官。の。い。ふ。と。と。あ。る。
 當。中。に。終。まり。ける。梶。原。景。時。と。と。は。さ。き。便宜。と。得。る。と。心。中。大。小。歎。び。て。折
 と。必。て。頼。朝。小。の。一。言。諸。士。の。終。ぎ。と。終。め。ん。と。あ。る。の。い。ふ。と。と。あ。る。實。は。自。立。の。志。あり。更。小
 田。油。斷。あ。る。と。い。ふ。と。終。り。ふ。け。は。六。頼。朝。へ。例。の。板。敷。深。き。性。る。ゆ。え。や。範。頼。を。殊
 と。心。で。著。て。終。り。ふ。け。は。さ。き。不。審。の。と。と。あ。る。に。と。小。園。で。その。罪。あり。ぬ。て。罪。と。
 て。自。盡。せ。む。と。その。梶。原。梶。原。が。古。頼。小。比。基。の。ぬ。小。比。基。か。び。和。田。と。浦。の。條。の
 古。老。と。と。い。ふ。と。憎。み。と。い。ふ。と。と。い。ふ。と。と。い。ふ。と。と。い。ふ。と。と。い。ふ。と。と。い。ふ。と。と。い。ふ。と。
 或。人。と。と。と。評。し。て。い。ふ。と。和。田。島。山。と。浦。及。び。千。葉。土。肥。等。の。古。老。小。比。基。
 の。忠。臣。之。然。る。に。景。時。君。小。比。基。連。枝。と。斃。し。諸。士。と。終。り。文。治。以。來。終。り。に。論。と。と。

以又殺せはりの多し然るに未だ知らば類して君の不仁累時が不臣で糾さ
 ててあさむ頼朝薨る頼家の正治元年十月朔く累時が罪責を辨へて金
 せ逐ふ到る思ふ小まて曉ううすやとの経理あるふ似ふとどかそ人の善悪い
 後世の後端小定まる脱小孝謙天皇の四子弓削道鏡等て得て出位でり嗣
 んといこまの野のむのち本朝古今に類う百官百司その威小畏はとの
 ときさびとらざらん
 時吉備公大臣なりあつとも猶とまて糾さむ孝謙崩所の後小及び道鏡と
 りて下野ある茶作との別まともこまの罪を責でなり然るに天皇在位
 の日美為こまとあさは思ふふられ崩所の後道鏡が罪の露とる累時
 中まもに類さへ一古老の思居あつて類して在にわあふさあうん
 かくて鎌倉二代將軍頼家の時ふあひ正治元年のとなり結城朝光當中小在て其
 同僚小結ふそととと思居に二君小仕へべと在下不肖なりといへども古將軍

小に存て殊絶の恩で彼ううりさむ幕下薨逝の時仕へて致し利發とて
 世に遠まんと欲ひに遺骸を奉りてあ志と果し得む今とて考ふとバ胸
 と嘆の悔ありといひ中終らむと双眼より涙で瀾然と流りたり梶原累時侍小在
 てあことと等一羽林頼家小繼ていそ朝光先君より恩顧で世に老臣
 小ありあつ二君小仕へざるの結とては時と慕ひま時で憐ること世で乳さんと
 するの賦なり早く殊絶を加へむバ後かあつて患へあうんと言にけむバ頼家い
 未時思ふにより累時が結で信ト武士に今て朝光で殊せんと企らはあので
 早くもあかりて大い驚きこ浦々村が茅にぬれ如世のてあなり在下曾
 て異心あらむ顔くいそ朝光が為小元来で針りのりまといひけむ巴我村中俱小
 涙きで涙でう累時が結小浦は老多し然とどむ古幕府石橋の後小大功あり
 てを戦死で彼方により舊臣中終ととと釋せり开て曉らむ今小結て頻りに殊

言と構ふる余を奇怪と極なり君の爲国の爲殊哉せむあべうらびとて畠山宗房
 重忠和田左衛門尉辰盛と姉妹緒光長ふととて告鶴が母の社前小おいて拜後
 ちまふと定めけしむば及ぶ輩六十六人同所の廻席に居あがもそ景時が惡惡を
 犯んと候一ありかて景時が舊新の罪盡く書くとととて折入ふ小放て景時も
 今さう陳謝すると候と一統從類と引俱して来地を相換國一官へ免つとて連
 署の面々六十六人ととて追討んと候一けしむども前所臺政ふれ四方より渠その
 罪科ありととどむ古幕府を在いて奉のふ砌へ二戦小利と失ひ敵の爲小發とるふ
 脱に田生害あらんとせむと景時様ととまわうとてその危急を脱せりハ比類ふ
 き功なるふより夫より以来恩遇渥一とととのとあづい西征東伐從ぐべき所あり
 軍忠のすゝ浅くあらむと就中源太景季生田の次小平家と封とて引ハかき下の
 ぞと候ト能小梅を挿しとて武勇といひ心操の優なり人々を知らしめり故小石

幕府の一方あるも服従の旨とも思へり。然るも今度あつたるは罪ありとて速におとめて退討せらるに思ひぞ。自分もとて悔てその来地へ還さぬ。此後何やどのてと仕合せなき。不意のやえあり。下謀と加ふるとも遅たああり。さうべしと奮功と迷て諸士の怒りて宥めらるも理ある。そのまに止まり。とて偏小前山某が山仁をも抑ひのめると果時とて知るや。かきずや。一官小参やを後一族を集合強てのめり。吾幕府の時小大功とてさるる人の知る所なり。然るに斐遊の間あり。ど。か。お。遇て娘むの族連署して滅さんと。その結構言結小終。脱小身と捨てとの辱と雪めんと。さひ。か。かくて。自滅と招く小似。一まづ。その災と。避て。後小何程の経方あるん。その来地へ還さる。が。始終要徳ある。さる。さ。若ト武で。煉。と。兵。と。喜ひ。不。目。に。攻。上。ら。ん。あ。と。その針をて破しけるに。甲斐源氏武田有義。兵。清。尉。小。任。下。武田大郎信義の二男。父信義の富士川の戦ひ。その功莫大なるに。なり。

幾えみ。五七万の勢をひん。案の中へと勇も。密に準備して一族を引。一宮を
さす。渡河の国をさしけ。かくて周を清見。又と還る所。近隣の土。華原ハ
市工藤之部。と澤。次部。飯田。五部等。そふ外様の者。あると。鹿原。ごとく。多
て。憎を。あり。う。快。とう。執。かくて。或。日。の。四。個。馬。矢。槍。の。え。從。者。で。む。さ。つ。且。
獵。で。せん。と。さ。出。て。め。ま。さ。り。方。方。方。方。巡。る。に。鹿。原。父。子。先。小。多。從。
者。と。も。四。五。十。人。物。具。ハ。せ。ま。と。も。要。あり。氣。に。道。で。急。く。華。原。前。小。塞。と。除。ら
し。累。時。ぬ。し。の。頃。ハ。豫。念。で。還。ま。て。在。所。小。あ。い。ま。し。と。さ。う。小。人。の。告。る。が。何。用。あり
て。一族。と。俱。何。方。ま。で。ゆ。き。う。と。の。所。い。音。を。傾。知。る。と。要。因。の。あ。る。さ。う。ち。で。せ。う
は。余。さ。め。う。と。と。結。け。は。累。時。ハ。顔。脹。し。う。ふ。の。頃。は。細。めて。豫。念。小
あ。う。ど。采。地。の。一。宮。小。在。任。せ。う。然。る。に。さ。う。要。の。事。あり。と。さ。う。ま。え。と。と。と。通
る。や。足。下。等。が。傾。知。なり。と。も。え。と。ま。の。海。道。之。何。七。車。毎。に。案。内。と。さ。き。由。り。あ。れ

と。と。答。む。る。人。の。多。其。処。除。き。い。へ。と。い。ひ。由。取。び。後。方。の。累。季。以。下。累。高。小。も。賤。眼
と。馬。と。早。め。走。ら。ん。と。は。華。原。及。び。四。個。の。老。も。い。と。怪。し。と。り。ひ。け。ま。と。と。の。先。小
傾。と。さ。う。道。と。塞。ま。て。大。青。あ。げ。九。七。君。の。氣。を。と。被。う。勢。を。老。の。身。で。怪。む
と。と。君。と。數。を。所。以。あ。れ。夫。等。の。と。の。老。后。と。と。辨。へ。さ。う。ぬ。と。い。ひ。なり。然。る。と。か。一。族。從
類。星。と。拂。つ。て。出。ら。は。い。か。あ。う。に。野。心。と。さ。う。い。は。い。僻。目。を。然。然。と。あ。う。が。國。家。の。田。為
主。て。い。や。さ。う。通。さ。う。と。う。に。夫。校。と。射。ら。ん。と。も。累。時。由。な。さ。し。奴。等。小。見。外。れ。め
ら。ま。う。念。め。さ。う。跳。倒。と。せ。ん。と。い。ひ。と。易。さ。小。似。と。と。と。の。か。く。て。い。後。日。の。妨。あり
賺。し。て。と。通。ら。ん。と。実。に。お。軍。家。の。氣。を。と。被。う。采。地。小。あ。と。と。違。い。全。く。豫
者。の。所。為。あ。と。の。罪。あ。し。さ。ま。言。一。抜。え。と。す。と。と。の。情。上。小。通。せ。む。と。く。小
於。て。勢。田。の。社。へ。祈。願。の。為。來。訪。せ。ん。と。一族。と。俱。と。ある。と。公。宜。く。入。道。と。を。吾。志
願。と。果。さ。せ。よ。と。い。ひ。う。さ。と。の。走。ら。ん。と。い。と。の。言。の。う。く。烟。丸。な。さ。と。争。で。人。を。と。縣

まことの吾と欺き得ん。そは遁をまじし夢なりて。四個一矢でうち審ひ。きろくと
 奮然たる方あり。果々果高火怒り。その後なら。咄哉と通らんと太刀拔
 撃してうち討ふ。誰人們も左右別れ得物として提雲時がやうに挑こころい
 果時にいっせいに切抜んとせん。心腹をまうかどむひけさば捨鞭をあて沈
 むせよ。息所從中疎つぎ二敵小薙ぬ。様あ返せと芦原三郎之沢飯田の
 士卒を励まし。操小操で遊ばせり。既小同は狐が傍とのみ防めさせ。沈著きぬ
 小射ちるまゝ梶原心の割にあはれども。未肌といひ合戦の用意なけさは教へた。
 各深傷を負ひぬ。今いふべき事すべし。景時で始め果々果高景茂及び戦死
 せる者約て二十人なり。當時の父子英雄ゆて才智衆小抽くまゝには古より人
 と隔る。その報い終小違ふ。実小惜むべきことあり。

金川常書